

まっかくかぐら 末角神楽

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 小国
- ◇ 保持団体 末角神楽保存会

末角神楽は、早池峰神社^{うじこ}氏子の願いを受けて、旧川井村大字小国字土沢^{しんとうけとよさかいなば}の神道家豊坂因幡が文政2年(1819年)、津守兵庫^{つもりひょうご}から伝授を受け、氏子に伝えた神楽です。

毎年、8月の加茂神社^{かも}、9月の早池峰新山神社^{しんざん}の祭礼で神楽を奉納し、小正月には火祭りとして夜神楽を舞い、権現舞によって火伏せを祈願しています。

かつては、早池峰山を信仰する漁業者に^こ請われて大漁成就、海上安全のため、三陸沿岸を廻ったこともありました。火祭りでは、庭で権現舞を舞って宿に舞込みます。祭壇に権現様を安置して、打ち鳴らし、神事後、幕神楽を演じます。幕神楽は、式舞^{しきまい}として御神楽・翁舞^{みかぐら おきなまい}・三番叟^{さんばそう}・八幡舞^{はちまんまい}・山の神^{やまかみ}・岩戸開^{いわとびらき}の舞の六番と、水神舞^{すいじんまい}、普勝舞^{ふしょうまい}、清剣舞^{せいつるぎまい}などを演じます。幕上げ権現舞といって、権現様が宿の火伏せと観客の身固めをして終了します。

